

むすんで ひらいて

第42号

発行日
平成31年3月

発行：福井市地区社協連絡協議会
〒910-0018 福井市田原1丁目13-6 フェニックス・プラザ1階
(社会福祉法人 福井市社会福祉協議会内)
TEL 0776-26-1853 FAX 0776-26-9109

地域福祉活動発表会

地区社協を代表して 円山地区社協が発表！！

平成30年12月15日(土)に市社協主催の「地域福祉活動発表会」地域での新しいつながりのこれから」が開催されました。地区社協や企業、学校など様々な分野の5団体から、それぞれ活動に取り組むことに

なってきたきっかけや目的、取り組んでの課題やこれからの活動について発表がありました。

発表団体のひとつ、円山地区社協では、自治会と協働して見守り・支え合い活動を行っており、助けが必要な方々の日常生活の不安を和らげ、安心して暮らせるまちをめざして地域ぐるみで活動しています。

マスコットキャラクター「まるちゃん」を作成し、シールやリーフレットを作って各家庭に配布したり回覧板に貼ったりと、取組内容を広くPRし、啓発活動にも力を入れています。

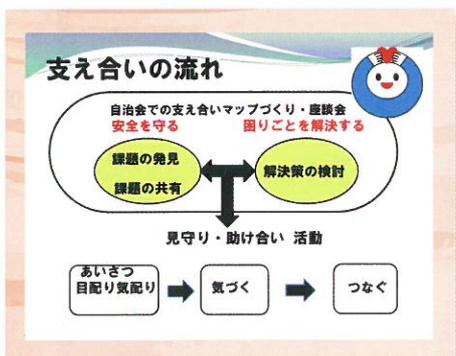
また、支え合いマップづくりを行っており、参加者や、それに共感した「ご近所」が中心となり、つながりが少しずつ広がり、住民主体の活動が進展してきているとのことです。地区全体で支え合い活動に取り組んでいることがわかりました。

見守り・支え合い活動は5年目を迎えますが、地区の高齢化も進み、さらに一歩踏み込んだ支援をいくく必要性を実感しているそうです。

このように、各地区や他の団体の活動内容を共有することが、より良い取組みの実践につながります。ぜひ積極的に情報交換することをおすすめします。



発表者の河合・野村両副会長（円山地区社協）



円山地区での「支えあいの流れ」



助言者の田中志敬先生（福井大学）

福祉委員スキルアップ研修



平成30年9月1日(土)、県自治会館において市社協と共催で福井県立大学の吉弘淳一准教授による福祉委員スキルアップ研修「楽しみながらかわる支援のあり方」を開催し、129名の福祉委員さんの参加がありました。

初対面の人に対して苦手意識を持たない方法は相手の良い所をさがすこと、相手をほめること、また、相談された時はマイナスの言葉をプラスの言葉に変換して返すことなど、人と関わるときポイントを演習をまじえながら分かりやすく説明していただきました。



また、エゴグラムを使った性格診断では、5つのタイプごとの特徴や考え方の傾向などを説明いただいた後、自分と同じ診断結果が出た人を探すため会場内を移動し、初めて顔をあわせる多くの方と言葉を交わしました。会話が弾んでいた方もたくさんいらっしゃいました。

福祉委員活動だけでなく、普段の生活でも活用できる内容がたくさんあり、吉弘先生の楽しいお話に、終始笑いのごほれる研修となりました。

連絡会を開催しました

平成30年1月28日(月)、福井県民ホールにて地区社協役員等約150名が参加し、1月連絡会を開催しました。

今回は、地区社協の方々の中で関心の高まっている「こども食堂」について研修を行いました。市内でも食堂を開催している「ひまわりキッチン」(明新地区)と「ほっとルームあすわ」(足羽地区)に取組内容を発表していただき、市社協からも食堂について、全国的な傾向や概要の説明がありました。



ひまわりキッチン



ほっとルームあすわ

されることも食堂の活動に対し、地区社協として協力できることが何かを考える機会となりました。

その後の年賀会では、各地区同士の交流がにぎやかに行われました。

見守り活動に関する研修会(コーディネーション研修)を開催しました



平成30年8月9日(木)、京都光華女子大学の石井祐理子教授を講師に、見守りや地域福祉活動全般についての「住民参加を高めるためのコーディネーション研修」を行いました。地区社協からは66名の参加がありました。

コーディネーションとは聞きなれない言葉ですが、立場や状況が異なる人々や組織の間に新たなつながりをつくり、対等性を考慮しながら調和・調整する考え方で、普段の地区社協活動の中で、実はすでに実践しているものです。

コーディネーションの必要性や地域の様々な力をつなぐ手法についての講義を受けた後、グループにわかれ「コーディネーターとしての心得10カ条」を作成しました。困りごとを聴くために心がけていることや、地域で一緒に活動する新しい人材を見つける心がけについて共有しました。

参加された皆さんからは「自分の活動が地域のためになっていると再認識できた」「今回の研修を励みにこれからも頑張りたい」など、前向きな感想がたくさん聞かれました。

地域での見守り活動等に参加する仲間を増やすため、今後は地区社協単位でもコーディネーション研修を広めます。



【コーディネーターに必要な心得10カ条】(抜粋)

1. 自分から声かけ、挨拶
2. 情報収集・情報共有(行事に積極的に参加)
3. 守秘義務
4. 一人で抱え込まない
5. 専門機関との連携
6. できること・できる時間に少しずつ
7. 55歳(リタイア前)頃に声かけ
8. うそは言わないけど全部は言わない
9. 感謝と仲間づくりで人生の品質向上
10. 自分の地域は自分で守れる

ふくし広報コンテスト2018 受賞おめでとうございます!



湊地区社協の広報紙「ふれあいみなと」が県社協主催のふくし広報コンテスト2018において、審査員特別賞「まち・ひと笑顔賞」を受賞しました!

- ・表紙にも情報をふんだんに盛り込み、限られたページ数ながら充実している
- ・各種事業のお知らせなどを分かりやすく紹介している
- ・身近な情報を発信している
- ・地区社協の役割をしっかりと伝えている

という点が評価されたそうです。

みなさんも素敵な広報紙を作成し、地区社協情報をどんどん発信していきましょう。

地区社協の活動と取り組みを順番に紹介します

河合地区

河合の蕎麦と地域のつながりで健康増進を

福井市北部に広がる農村地帯である河合地区では、11・12月の8町内で開かれるデイホームにおいて、河合で育て採れたそばを使って蕎麦の賞味会を行っています。

当日の朝、そば愛好会の方が蕎麦を打ち、民生委員・福祉委員が茹でて盛り付けし、参加者に食してもらっています。皆さん毎年楽しみにしていて、蕎麦会はいつもの人数で盛況に行われます。



木田地区

みんなで力を合わせて地域支え合いマップづくり

木田地区は、人口が増加傾向にあります。比較的若年層の多い地域ではありますが、最近が高齢化率が20%を超えてきています。

地域のつながりの希薄化などによる、高齢者等の孤立や日常生活の不安をなくし、誰もが安心して暮らせるまちづくりのために、地域住民との連携・協力は言うまでもないことです。とりわけ福祉委員と民生児童委員との連携・協力は必要不可欠です。

そこで、福祉委員と民生児童委員との情報共有の場として、「地域支え合いマップづくり」合同研修会を開催しました。

市社協の担当者から、「支え合いマップ」の目的についてお話をいただき、用意した住宅地図を見ながら、一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯、その他気がかりな世帯に、色シールを貼っていきましました。

作業をしながら、対象者についてお互いが知っている情報を交換することで、自分が出来る範囲で気を配ることが見守りにつながることを学びました。また、委員が交代することを考えると、定期的、持続的に研



修会を開催することの必要性を痛感しました。

木田地区の誰もが安心して暮らしていけるよう、福祉委員と民生児童委員が互いに力を合わせていくことが大切だと確認できた研修会でした。

木田地区社会福祉協議会

河合地区社会福祉協議会

会長 北川 幸秀

◆ 次回は国見地区と啓蒙地区を紹介します